

令和6年度第1回静岡県立看護専門学校学校関係者評価委員会会議録

日時	令和6年9月3日（火）午後4時00分から午後5時40分まで
場所	静岡県立看護専門学校会議室
出席者 職・氏名	（委員）平賀聖悟（三島総合病院名誉院長） 杉山眞澄（静岡県立大学非常勤講師） 上藤美紀代（ヴォイスセラピー実践研究家） （委員3名 敬称略、順不同） （学校）田代聖紫校長、森上美知子副校長、山本晃総務課長、 長谷川明子教務課長、渡邊千恵子看護1学科長、渡邊静世看護2学科長、 廣瀬順助産学科長
議題	・学校自己評価について
配布資料	・令和5年度静岡県立看護専門学校自己評価表 ・職員アンケート結果
備 考	杉山眞澄委員は当日欠席のため、事前に紙面により意見書を提出していた。下の結果概要では、各大項目の冒頭に記載する。

1 開会あいさつ

（田代校長）

本日は学校関係者評価委員会の開催にあたり、委員の皆様には御多忙の中御出席いただき、お礼申し上げます。また引き続き、又は新たに委員に就任いただき感謝申し上げます。

この会議は、専門的な知見を有する外部の学校関係者の方からのご意見をもとに、課題等の解決に向けて取り組み、適正な学校運営を図っていくということを目的として、令和2年に設置し、毎年度、開催をしている。

今回評価の対象期間である令和5年度については、新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行される中、コロナ禍で制限や制約を受けていた活動の内容を以前の活動状況に戻してきた時期であり、感染拡大防止に注意しつつ、授業や実習を円滑に実施し、学生の学びの質を低下させることがないように、学校運営に工夫をして取り組んだ。国家試験の合格状況については、看護師の合格率は97.9パーセント、助産師の合格率は100パーセントと高水準を達成することができた。そのほか、カリキュラムの改正に伴い、ICTを活用した効果的な教育を実践するため、環境整備や予算確保などにも取り組んだ。

こうしたことを踏まえ、学校として自己評価を行ったところである。

委員の皆様には、当校の学校運営や教育活動等に関する令和5年度の自己評価、取組状況について、忌憚のない御意見をいただきたい。

2 委員長選出

- ・静岡県立看護専門学校学校関係者評価委員会設置規程に基づき、委員の互選により平賀委員を委員長に決定した。

(平賀委員長)

この評価委員会の始まりからお付き合いさせていただいており、5回目の評価となる。設置規程にあるように、この学校運営及び教育活動の改善のために資するような会議ということで、せっかく会議を開くので、この評価の資料を基にして学校が改善したり発展するような提言のまとめができればと思う。よろしくお願いします。

3 結果概要

委員長が議長となり、資料1に沿って、教育理念・学校運営等の9大項目について各項目ごとに、田代校長から、令和5年度の実績、職員アンケート結果、これらを踏まえた学校自己評価結果を説明のうえ、各委員から自己評価結果に対する評価、御意見をいただいた。

・委員からの質疑、評価及び学校からの説明

(1) 教育理念・目標

(杉山委員)

- ・(4)の評価については、回答される先生方が考える「社会のニーズ」の捉え方に差があるためではないか。教員の会議や研修などで確認していくことが必要かと思う。
- ・(4)学校の理念や目的などは、学生は学内でも伝えられるが、保護者や外部の人は、HPでも見ない限り伝わりにくいので、学校紹介の動画に工夫を加えると良いのではないかと思う。現行の学校紹介動画(YouTube)は音声もなく、学内施設紹介に止まっている印象。学生の出演による紹介(キャラクターでも可)で学校の理念、目的などを組み込み、学生の学習・実習、生活などがわかるようなものを数本作成し、公開すればわかりやすいと思う。学校のPRにもなるし、今の保護者には紙面よりも馴染むように思う。

(平賀委員長)

保護者宛ての周知で、学校便りで学校の方針や考え方を伝えるというが、どのぐらいの頻度か。

(長谷川教務課長)

年1回です。

(平賀委員長)

後援会の広報誌になっているので、学校側というより後援会か。これまでこの会でも発言してきたが、卒業者との絆、先輩後輩の繋がりが薄いのではないかと思います、宿題と考えていた。こうして後援会として広報誌を出しており、活動している証拠ではあるが、まだ希薄だと感じている。学校側は介入できないが、支援する姿勢があってもよいと思う。

(上藤委員)

杉山委員の、学校案内の動画をもう少し工夫したらどうかとの意見で、YouTubeに載せるというのも予算的に簡単にできるものでもないと思うが、学校側はどう考えるのか。

(田代校長)

確かにホームページでは、学校内を回っているだけになっているように感じ、普段の様子や行事の様子を紹介するなど、もう少し工夫ができるのかもしれないので、検討したい。

(上藤委員)

杉山委員のご意見の、「回答される先生方が考える『社会のニーズ』の捉え方に差があるためではないか。」について、社会のニーズということに関して教員 1 人 1 人の考え方に差があるということは、普段感じていることなのか。

(渡邊静世学科長)

社会のニーズについて議論することはないが、東部地域の看護職員が求められており、入学した学生をしっかり育てて地域に出していくという学校運営の役割をしっかり意識しながら教育に当たっている。

(上藤委員)

先生方の根底にあるものが一致していれば、それぞれの考えが違って、それが社会だということを学生に伝える 1 つの手段でもあると思うので、きっちり同じ考えでなくてもよいが、普段から交流し、根底が 1 つであればいいのかな、という気がする。

(2) 学校運営

(杉山委員)

- ・「やや不適切」「不適切」との回答者が多かったのは(8)、(11)、(12)だが、運営組織や意思決定機能については、意見交換の場を設けて努力されたとのことなので、教員の意見を出し合い、目的に向けて議論する努力を続けていただきたい。
- ・(11)は教育活動の情報公開についてで、先述のように実習やイベント等の数分の動画を学生に作成してもらい、公開すれば、情報公開と学校の P R の両方が狙える。
- ・情報システム化については、何の作業について時間と人員が捉えられるのか、確認する必要がある。システムの見直しで業務効率が上がるのであれば改善をお願いします。

(平賀委員長)

学校運営の I C T 化を中心に、評価としては、効果が得られたという結果になっている。

前のこの委員会で、教員同士の、評価しっぱなしではなくて、意見交換する機会があった方がよいという提案があり、実際に意見交換を行ったということだが、実際には意見交換はどのように行われたのか。

(渡邊千恵子学科長)

各学科ごとに、評価結果をもとに各教員から意見を出してもらい、どうしてこの点数になっ

たか、点が低ければどう改善したらいいかといった意見も出し合って、まとめた。教員1人1人が、評点が低いという意識付けができ、自分はどう改善すればいいかということに、授業や学生対応で行動を起こすことができていたので、とてもいい意見交換だったと思っている。

(平賀委員長)

学校のICT化は基本方針のようだが、取組にもあるように、県でもその方向なのか。

(田代校長)

県庁でもそのような機器を使って業務の効率化を進めている流れもあり、厚生労働省の看護師の育成の考え方としても、ICTの活用という検討会の報告に伴った動きの一環と理解している。

(平賀委員長)

ICT環境の整備で、今、導入したてだろうと思うが、目標とかステップごとの次の段階は、何かあるのか。

(長谷川教務課長)

今年の教務課の重点取組としては、看護教育の質の向上と教育DXの推進化ということが挙がっていて、高機能シミュレータと電子黒板が認められて、今年の7月に導入したところ。また、学校案内に載せた、「ふりかえ朗」というデジタル化で看護技術を振り返るようなシステムと、多職種連携ハイブリッドシミュレーターを7月に導入し、助産学科がもうすでに「ふりかえ朗」を活用している。

(廣瀬学科長)

技術試験で学生の手元をカメラで映すことができ、細やかな動きについて後で学生と振り返ることができる素晴らしい機械で、どこの何がいけなかったのか、どうすればもっとうまくできるようになるかといった具体的な振り返りができる。試験の時の学生と教員の評価のずれが埋められたように思う。

(長谷川教務課長)

個々の学生が個人のデータとして、自分のipadに記録として残しておけるということも、繰り返し自分の技術がどうだったかという振り返りができるということも、とてもいい教材だと思っている。「シナリオ」という人形教材は、状態を変化させるところをシミュレートできるというもので、8月のオープンキャンパスでは来場者にお腹や肺の音を聞いたり、脈をとったりする体験をしてもらった。「メディアイ」という教育用の電子カルテは、学生が実習に出て、学内で学んだことがすぐに活用できるように、学内での練習をより臨床に近いものにし、苦手意識をなくすために学内で訓練をしながら臨床に近づけていくことができ、今までは教員がペーパーペーシェントといって紙で患者情報を全てexcelやwordを駆使して作っていたのを、作る必要がなくなったということも、効率化が図られているのではないかとも思っている。

(上藤委員)

教育活動の情報公開に触れられているが、マスコミの感覚になってしまうのかもしれないが、動画で学生を上げるのは、情報がどこでどう漏れているかわからないという今の時代の怖さがあり、あまり動画でPRしましょう、というのはどうかという考えもある。先生方には学生を守るという立場もあるので、一応そんな意見があるということも承知してほしい。

(田代校長)

学校の状況を外へ知ってもらうことと、一方で、学生たちのプライバシーも守るという兼ね合いの中でどの程度できるか、考えなければいけない部分もあるかと思う。

(3) 教育活動

(杉山委員)

- ・電子教科書の導入は効率的でよいと思う。iPad による講義途中のミニテスト等の実施など、双方向での利用ができれば実施したかった。外部講師にもやり方を教えて頂ければ活用が広がると思う。
- ・カリキュラムや教育方法の工夫・開発に関しては(16)、(17)の評価が3に満たないのは気になる。教員全体でカリキュラムマップを作成し、進度と併せて各科目の見直しをしてみたらどうか。
- ・人材育成に不満が多いようだ。臨床から離れて長い教員もいると思うが、実習を通してだけでは新しい知識や技術、政策等の理解ができない。教育実践能力育成ガイドラインを作成されたのは第一歩だと思う。学内での教員研修の他、計画的な教員育成のための研修への出張の予算確保と、学会参加等、各教員の自己啓発の意識を高める努力をお願いします。

(平賀委員長)

研修について、以前には、教員の先生方の研修の機会が少ないんじゃないかと、この委員会で言っていたが、学会とか、自分の専門とする分野の研究会にもあまり出られない状況ではないかと心配していた。

(長谷川教務課長)

そうした意見もあり、教員独自の企画として、令和5年は2回、学内教員が主となって行った。また、学校主催で、外部の先生を呼んで、臨床判断能力の講義をしていただいた。それから、コロナが落ち着いてきて、5類に変わったことから、令和5年は22回、延べ人数で91人の教員が外部への研修に行った

(平賀委員長)

令和5年度は倍増した状況だった割に、なぜ評価が低いのか。

(渡邊静世学科長)

教員間のグループディスカッションで、ある程度規定されてるものを提供して、出席の意思を聞いていたが、自分自身が行きたいと思う専門領域の特定した研修や学会といった時間を要するようなどころに行くことができなかったのは残念だったという意見もあった。実習があるので、なかなか休みが取りにくかったという意見もあった。そうしたところを少しでも改善しようと、今年の4月から運用しているガイドラインでは、本人が希望する研修をうまく計画して実践に持っていけるようなシステムを盛り込んだものになっていて、本人たちのニーズが少しでも充足されて、専門性なり本人たちの教育力のアップに繋がってくれたら嬉しいと思う。

(平賀委員長)

学校側のいろいろな努力や、ガイドラインの作成など手を打たれている割には評価が低く残念だが、今年に期待したい。

(上藤委員)

ipadの使い方を外部講師にも教えてください。

(平賀委員長)

講義途中のミニテストは入れてください。

(渡邊静世学科長)

具体的な運用については、少し検討を要するところもあり、今後の課題になるかと思う。

(4) 学習成果

(杉山委員)

- ・ 国家試験については、模擬試験や個々の学生への指導に力を入れている成果といえると思う。継続して、全員合格を目指して下さい。
- ・ 看護学校では平均 13～15%と言われる退学者が一桁であり、退学者が減少したのも教員が学生や保護者への相談、指導を丁寧に行っているからと思われる。特に学習成果の出ていない学生への指導を継続していただくようお願いします。
- ・ 就職に関しては、希望の施設に就職できているのは学校の目的にも沿った成果かと思う。就職説明会も効果的だったのではないかと思う。卒業生を外部講師として招聘するのも、卒業後のキャリアを考えるためにも有効だと思う。就職だけでなく、進学も含むキャリア形成を考慮した先輩講師の選定をすると良いと思う。

(平賀委員長)

退学者の問題も、この委員会が出たところだが、8人のうち進路変更が6人で、やむを得ない事情ということになるかと思う。数の上ではだいぶ減って、先生方の努力だと思う。

それから、分析にも書かれていて、私も先ほど申し上げたように、この卒業生の社会的な活

躍評価の把握については、活躍はともかく、絆がちょっと弱いと感じる。卒業生がたくさんいる職場でも、先輩後輩という感じで接していないようで、関係が希薄に感じる。OB会、卒業生の会を充実させていくということがあってもいいかなという気はしている。

実習病院が非常に多いので、連絡調整会議が必要だと思うが、まめにやっているのか。

(長谷川教務課長)

4月、8月、3月に実施している。連絡会議の目的としては、今年行く実習の概要説明、8月は後期の実習の説明で、全体で顔合わせもあるし交流も深めるということもある。年度末は、この1年間の反省、まとめを持って、実習先に出向き、1年間のお礼と、1年間のこういう実習をやらせていただいたというまとめを、説明する。また、来年度の実習場所の確保のために年に2、3回出向いている。当校からの卒業生の状況を聞かせてもらういいチャンスでもあり、当校の講師としても勧誘をする機会でもある。

(5) 学生支援

(杉山委員)

- ・全体的に評価は向上しているのは良い傾向だと思う。
- ・カウンセラーは、ハラスメント対策としても効果的。相談の中で出てきた問題に対しては慎重に対応をお願いします。その他、潜在化している問題などを整理して学生支援につなげて欲しい。
- ・学校祭の開催は、地域の人々にも学校を知ってもらう機会にもなり、学生間の交流の場にもなるので継続開催できるようお願いします。
- ・評価の低い(39)、(40)は、後援会と協力して同窓会を兼ねた会を学校で開催できるよう支援したり、高校への進路説明会や進路指導担当の先生への説明を丁寧に実施していくことで解決して欲しい。

(平賀委員長)

経済的な支援体制が大幅に向上しているが、県独自の給付金というのはどういうものか。

(山本総務課長)

県で予算立てをして、補助金の取扱いで、生活が経済的に十分でない学生から申請を受け、定額5万円の給付をすることで、学生さんの経済的な支援をしたというもの。多くの学生が受給できるように、要件をいろいろ検討し、できる限り対象を広げたということは、学校としても力を入れたところ。

(平賀委員長)

ハラスメントガイドラインを作った。

(長谷川教務課長)

昨年度3月に作成し、今年度4月に学生たちにも周知をした。ハラスメントの窓口は今年度開設し、窓口としては、QRコードからアクセスし、課長と副校長に連絡がくる窓口を作り、今のところ0件。

(平賀委員長)

学生の健康管理を担う組織体制があるかというところが、マイナスになっている。体制が整っているが知らないということか。

(廣瀬学科長)

コロナのとき体制をとって取り組んでいたが、R5になってだいぶ緩和されて、R4よりは若干緩めてきたといった評価なのか、何かができているということではなく、状況が変わったということだと考えている。

(6) 教育環境

(杉山委員)

- ・概ね評価は改善しているので、改善・努力された点を引きつづき継続・見直しをお願いする。
- ・災害対策に関しては、学生も巻き込んだ対策を考えていくことは健康危機管理の学習にもなるので続けてほしい。

(平賀委員長)

防災訓練はやっているか。消防は入っているか。

(山本総務課長)

年に2回、4月と9月の始業式の時に、メニューをその度に色々検討して変えながら、実際に校舎から逃げる避難の他に、何かしらの防災的な知識や考えを身につけてもらえるような訓練を考えて実施している。

消防は、日程等で今のところ入っていないが、力を借りて行いたいとは考えている。

(平賀委員長)

大規模災害で帰宅困難となった場合の想定訓練もやっている。

(山本総務課長)

遠くから通われている学生もいて、実際にここから帰ることができない状況になることも考えられるので、あらゆる場面を想定する中で、そのような訓練も取り入れている。

(7) 学生の受入れ募集

(杉山委員)

- ・概ね評価は改善しているので、改善・努力された点を引きつづき継続・見直しをお願いする。
- ・ホームページのキャンパスライフなどは、わかりやすく楽しそうで良い印象。プラス学生作成の動画が追加添付されると良い。硬さがなくなると思う。
- ・学生募集に関しては、引き続き人数確保と共に質の担保を考えて進めてほしい。

(平賀委員長)

評価が上がっており、いろいろ多面的な活動をして、増加したということがわかると思う。通信制高校については、この評価委員会で石田先生が気がつかれて指摘してくれたのを、早速学校が実行されて、応募できるようにした。実際の応募は出てきているか。

(田代校長)

試験の実施がこれからで、募集要項では制限を取った形で行うので、成果は来年度になる。

(平賀委員長)

このところ少子化で苦勞してるという話は大学でもよく聞くが、父兄の方たちは4年制大学志向があり、まず4年制を選び、その次は専門学校で、2番手になってしまう。そういう中でも入学生を確保しているから、頑張っていると思う。県立で授業料が安いという強みもある。

(上藤委員)

大学と専門学校と両方に関わっていると、大学は、看護師になりたい学生と、そうでもない学生との差がある。専門学校はクラスが1つになって、みんなで国家試験にパスしようという勢いや、横の繋がり、クラスメイトを大事にするといったものを感じて、私の中ではとても看護学校の評価が高い。その魅力をPRできるといい。

(平賀委員長)

大学は少しゆとりのあるところが影響しているかもしれない。専門学校は職業教育ということころにも違いがある。

(上藤委員)

杉山先生の意見にある学生募集に関しては、引き続き人数確保と共に質の担保を考えていうのが必要かと思う。面接で判断されているのか。

(長谷川教務課長)

15分の面接時間の中で質を判断するのは非常に難しい。推薦の受験生はしっかり準備して作ってくる。一般受験では人数を確保したいので合格ラインを下げてでも確保したいが、上位者は大学進学などで抜けていく受験生が多い。

(平賀委員長)

大学志向が強い中で4年制と勝負するのも簡単ではない。

(長谷川教務課長)

推薦の枠に、公募型と別に指定校の制度を作った。令和6年度は入学生は3人入った。

(平賀委員長)

募集の路線を少しずつ増やしていきたい。

(8) 法令等の遵守

(杉山委員)

- ・概ね良い評価。
- ・個人情報の保護に関しては、新しい教職員も入ってくるので毎年の研修や会議の継続をお願いする。

(平賀委員長)

教員間の意見交換を始められたのは、教員間でも評価されているのではないかな。

(9) 社会貢献

(杉山委員)

- ・地域貢献に関しては、改めて公開講座を企画するのも大変なので、オープンキャンパスに合わせて、公開講座などを開催すると良いと思う。学校でどんなことを教えているのか、実習するのか、地域の方や受験を計画している方に理解してもらいやすい。(県立大学は、オープンキャンパスと学園祭の時、教員がミニ講座を開催している。～参考まで)

(平賀委員長)

地域貢献は評価が低かったが、地域にわかってもらえるような活動は理解されないのか、行われていないのか。ボランティア活動は、学生がやっているのか。自分の病院にも学生が来ていた。

(長谷川教務課長)

令和5年もコロナの影響を考えて、控えていた現状がある。今年は積極的にボランティア活動を再開し始めたので、数的には伸びるのではないかなと思う。

(平賀委員長)

コロナが全く心配ないという状況にはなっていない。まだ流行があるかもしれないので、もう少し様子見かな。

清水町の福祉避難所の役割は社会的にすごく重要だと思う。本当に大災害があった時、場所を提供しなきゃいけない施設になっているので、これを活かして、そういう訓練であるとか、

清水町ともう少し密に、地域貢献できそうな企画をしてみるとかはあるという感じがする。

看護協会や消防学校の講師は、社会貢献だから、積み重ねていけばいいと思う。

(上藤委員)

ボランティア活動は、しなければいけないのかと素朴に思った。学生も先生方もハードスケジュールで余力があるのか、また、そのボランティア活動が、やらなければいけないものというふうに思ってしまうのは非常に辛いのではないかとも思った。地域から要請があり、応えられるチャンスがあった時を、利用、活用して、そこで充実した活動をする双方にとって利益もあり、学生さんも学びもある、そういう、ちょっと余裕のあるボランティア活動を組み立て直した方がいいのかなと感じた。

(平賀委員長)

この項目の評価 2.3 は、完全なコロナ明けではなく、外との繋がり、対外的な活動なので、慎重に、そういう規制の下であると解釈していいのではないか。そうしたことを踏まえた上での慎重な数値ということになろうかと思う。

(平賀委員長)

以上、大項目、9項目にわたって、評価委員の意見を出させていただいて、これで私の役割は終わらせていただく。

4 閉会

(森上副校長)

平賀委員には、議事進行ありがとうございました。委員の皆様、貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。ご意見は今後の学校に活かしていく。

以上で、令和6年度第1回静岡県立看護専門学校 学校関係者評価委員会を終了する。